（1）　（明治25年３月28日第３種郵便物認可・昭和24年２月１日運輸省特別扱承認第16号）　THE JOMO SHIMBUN　平成元年（1989年）４月21日（金曜日）　第33842号　（日刊）

上毛新聞

発行所（〒371）
前橋市古市町1－50－21
上毛新聞社
電話　前橋(0272)(51)－4341(代表)
（報道）4343
（編集）4344・4345
（広告）4342
（販売）4345（発売）4363
©上毛新聞社　1989

県職員

海外出張が活発化

前年度は80人　若手も積極派遣へ

国際化時代の中で県職員の海外出張が活発化、前年度には過去最高の八十人余りにのぼった。出張の内容は視察、研修、随行などさまざまだが、オイルショックなどによる財政難から自粛していた五十年前後と比較すると急増、さらに、本年度も海外出張予算が約二千万円増額となり、九十九前後の出張者が含まれる見通し。増加を選挙と必要経費の増額助成を実施するなど、前向きに取り組んでいる所もあり、県では、職員の視野を広げ、先進事例を積極的に導入するなどの狙いがあるとしている。ただ、これまで「県職員の職務に対する厳しい視線が足りない」との批判もあったため、寄せられる声を広げていく考えだ。

県人事課によると、職員の海外出張は五十年代前半には十人前後だったが、その後年々増加。五十八年からの六十二年までの五年間の知事部局、県教委、企業局などを合わせた出張人員は三百四十五人（述べ人数）と、ほぼ二倍にのぼった。

前年度は約八十人で、さらに本年度は過去最高の出張希望者が約九十人分あるが、国際化の波が押し寄せるなかで、出張の増加は当然、との見方が多い。

「実際は県職員の皆さんの外郭団体などを主催の視察団として派遣、自費で参加する人数を含めると、この倍以上になるのでは」との指摘もある。

研修、調査の医師など専門職が多くの会合に呼ばれるケースも増えており、「県の代表として参加するのだから、ある程度の予算は必要」との声も聞かれる。

一方、県の財政事情も厳しさを増しており、「出張の必要性を十分に検討し、本当に行く人を選ぶべきだ」との意見も出ている。

県では、こうした状況を踏まえ、本年度から海外出張の基準を設けるなど、出張者の選定基準を厳しくしたほか、出張者の報告書を提出させるなどの対策を講じている。

大泉町長選

新有権者に狙い絞る

六六年ぶりに選挙戦となった邑楽郡大泉町長選は、前職の橋本勝氏（６）＝自＝小泉＝と、現職の玉塚元一氏（３）＝自＝小泉＝の一騎打ちで選挙戦に突入した。橋本氏は自民党県連幹事長の横田甚太郎衆院議員の後援会長を務めるなど、自民党の組織固めを進めてきたが、玉塚氏も町議会の多数派工作を進めるなど、両陣営とも一歩も譲らない構えを見せている。

同町の有権者は二万六千人余り。町長選の投票率が六〇％を割ったのは過去十六年間、一度もなかったが、今回は、新有権者約一万二千人を含む二万六千人余りが投票権を持つことから、両陣営とも「新有権者」の票獲得に狙いを絞っている。

橋本氏は「住民の手に町政を取り戻す」と前年十月、町議会を解散に追い込んだ現職の玉塚氏を批判しながら「若い町と若い力を」と訴えている。両陣営とも「新有権者」の票獲得に狙いを絞っている。

玉塚氏は「町政の混乱を収拾し、町議会との信頼関係を回復した」と実績を強調、今回は「青年層の支持を広げたい」と訴えている。

馬を表明、太田黒労働の支援を取り付けたものを始め、大内恒一郎氏などに投票を呼びかけている。

これら候補の中で、機関紙などに投票を呼びかけている。

面に出しての選挙運動は行わない方針だが、頭頭説明会などを開いて、町民の理解を求めている。

選挙戦は、真っ向勝負は、大企業からの支援を取り付けた橋本氏と、町民の選挙運動を重視する玉塚氏の戦いとの見方が強まっている。

華やか　フラワーフェスティバル　に開幕

前橋

花と緑のある快適な生活を…をテーマに、第三回花と緑の祭典「ぐんまフラワーフェスティバル」が二十日から二十四日までの日程で、前橋市関根町の県総合体育センターを会場に開幕した。オープニングに先立ってセレモニーで、県知事らをはじめボカルガリー五輪スケートの銅メダリスト黒岩彰さんらも参加するなど、会場は華やかな雰囲気に包まれた。

フラワーフェスティバルは、県内外から花と緑の愛好者を集めて、花と緑の楽しさを広く知ってもらうとともに、花と緑の産業振興を図ることを目的に開かれるもので、今回は、県内の花卉生産者や造園業者、花と緑の愛好者など約二百団体が参加、約二百五十の展示ブースが設けられている。

会場には、このほか、体育館内に、花と緑の展示ブースや、ステージ、屋外には、花と緑の展示ブースや、ステージ、屋外には、花と緑の展示ブースや、ステージ、屋外には